

2004. 11

Jリーグ・アカデミー

チェコ、オーストリア 選手育成レポート

清水エスパルス

アカデミーセンター長 池谷 孝



共産圏時代からユース育成に定評があり、ここ10年ネドベド、ロシツキーなど多くの優れた選手を輩出しヨーロッパサッカーの強豪国になったチェコ。反対にFIFAランキング80位代に低迷しているが、2008年、スイスとのユーロ選手権共同開催に向け着々と準備を進めるオーストリア。約1,000万人とさほど人口の多くないサッカー環境の異なる両国の育成システムや現状を知ることは、エスパルスのこれからの選手育成の姿を考える上で貴重であった。

またJリーグ百年構想のもと長期的な展望に立ってアカデミーを中心に草の根からトップまでの育成ピラミッドの構築を目指し、2015年までに世界のトップ10入りを目指す日本の選手育成を考える上でもたいへん意義のあるものであった。

まとめ

- ✓ 5歳、6歳（キッズ）のグラスルーツからの選手育成に大きな力を注ぎ始めている。
 - …社会背景の変容によるユースタレント減少、他スポーツへの流失、少子化に対する危機感などが背景にある。
- ✓ リーグ戦方式の大会が選手を育てる。
 - …育成年代は何回でもやり直しができる方法がふさわしい。特に育成年代の前半では選手交代の制限を設けないなど競技規則も柔軟である。最大の目標はプレーヤーズファーストを意識したよい選手の育成によるクラブとサッカーの発展にある。
- ✓ ストリートサッカーが育成の原点である。
 - …創造性、模倣、自主性、多くの繰り返し、コンタクトプレー、勝利への欲求、仲間とのコミュニケーションといったものを内包したストリートサッカーが世界中で多くのタレントを生み出してきた。車社会、遊びの変化、社会の変容に伴いストリートサッカーが難しくなっている現在それにかわるものがアイデアとしてトレーニングの現場に求められている。
- ✓ 地域との連携を図ることによってその地域でのステータスを確立しているプロクラブ、地域からリスペクトされるプロクラブ、明快な育成組織を持ったプロクラブは選手のスカウティングや育成を容易にする。
 - …地域との連携、相互理解、協働が選手育成の重要なキーワードのひとつである。
- ✓ 底辺拡大（グラスルーツ）・高いコーチの質・育成環境への投資・クラブでの底辺からトップ選手までの一貫した育成システムの構築・組織化がエリートを育て、地域との連携によってさらに多様性を持った選手育成が可能になる。
 - …いずれも長いスパンで考えていかなければならない時間のかかる作業であり忍耐も必要である。
- ✓ 強豪クラブは、ユース選手育成に多くの費用と時間と人材を投資している。
- ✓ よいコーチがよい選手を育てる。
 - …よい選手を育てるには経験豊富な質の高いコーチが絶対不可欠である。

- ✓ タレントの発掘にはコーチの千里眼（長い経験から得られた選手を見る眼や洞察力）が必要である。
- ✓ 選手の間人教育は重要であり、コーチはそれでもできなければならない。
…教育や躰もできるコーチが必要である。
- ✓ 選手はユース年代からクラブ自前で育てるのがもっとも安価で効率的で効果大きい。
- ✓ 年代別のチームを持っている（from U-6）。各チームには最低2人のコーチがいる。
…エスパルスの場合は、現状ではU-12まではチーム編成は難しいので、地域やトレセンやチームに指導者を派遣して地域と一体となって選手育成に当たり、地域の理解を得ながら将来的によい選手を吸い上げられるような配慮やシステムが最良であると思われる。
- ✓ トレーニングにおいては、S, P, I, T（スピード、パーソナリティ、観る力、テクニック）の要素が必要である。
- ✓ 「子どもは小さな大人である」と「子どもは小さな大人ではない」
…育成現場での、ストリートサッカーの衰退などの社会の変容がもたらすタレント不足という結果と創造的選手育成という命題。プレーヤーズファーストの考えに立った現実と理想の折り合いをつける育成の考え方が必要である。選手の将来を考えたとき、重要なのはあくまでもパーフェクトスキルの習得である。
- ✓ サッカーは子どもを大人にし、大人を紳士にするスポーツである。
…躰は重要な要素である。また、よいクラブには紳士的でオープンマインドな優れた人材がいる。
- ✓ 学校との連携と保護者への対応も重要である。
…選手の学習状況に対する関心や保護者とのよい関係作りなどオフザピッチでのマネジメントも重要な項目である。
- ✓ よい仕組みは真似することができる。クラブの実情にあわせてさまざまなものをアレンジ・工夫し、クラブ独自のものをつくる必要がある。
- ✓ 伝統あるクラブの周りにはそのクラブを愛するたくさんの人がある。

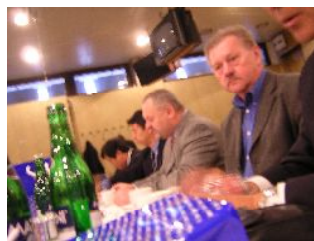
11月9日 **チェコ**

整備されたチェコのユース育成システム…チェコサッカー協会訪問

インターナショナルダイレクターDUDL 氏と U-19 監督 IVAN COPECKY 氏によるレクチャーが行われた。チェコには現在 SPARTA, OSTRAVA, SLAVIA, OLOMOUC といった 4 大クラブを中心に 1 部チーム 2 部各 16 チームのプロリーグがある。



育成のシステムは、まず学校での体育の週 4 時間の活動を基本にして、クラブでサッカーの専門的能力の向上を図っている。いずれのコーチも B ライセンス(トップから 2 番目)の資格を持っている。



15 歳以上になると優秀な選手はスポーツセンター(トレセン)に入る。年齢ごとに分けられたチームの人数は最少 14 人である。ここでは週 4 日計 6 回のトレーニングと 1 試合が行われている。このユースチームはリーグの 1 部 2 部以上に所属していなければならない。

スポーツセンターは全国の 38 クラブにあり、それ以外は 15 の地域センターとして学校におかれている。スポーツセンターは選手についての報告書をサッカー協会に提出する義務をおっている。DUDL 氏はこのコーディネーターであり、センターのユースチームと毎日コンタクトを取る立場にある。ヘッドコーチは A ライセンス(トップライセンス)が必携である。トレーニングは週 6 回行われ週末に試合がある。練習時間はだいたい 60~70 分である。期分けの観点から、試合期に比べ準備期の練習時間はこれより長くなる。ユース年代の子どもに対しては個人的なコミュニケーションの必要性があるのでその点を意識した指導も行っている。また、チェコ国内の 53 のスポーツセンターの運営費用は教育省の予算も含まれている。ユースコーチの費用はすべて協会が負担している。

共通の課題とキッズ年代に向けられる熱い視線

チェコの現在の課題としては、ユースタレントの減少が挙げられる。これは他のスポーツ(例えばアイスホッケー)が対抗してきていることやストリートサッカー(路地裏サッカー)の減少・消滅、ゲームや他の娯楽の浸透などが上げられる。これは世界的に共通する流れであると思われる。そこで現在注目しているのは 5、6 歳の子どもである。この年代からサッカーを教え込もうとしている。5、6 歳の練習はコーチひとりではできないので何人かの親のサポートを得て行っている。「しつけ」の要素も重要視している。チェコに限らず保護者への対応は重要な項目であり、子どものサッカーに対する親の干渉の過多は少なからずさまざまな弊害を呼び起こしている。



子どものサッカーの上達にもっとも影響を与えるのはコーチの質

また12歳まではいろいろなスポーツを与えてそれ以降にタレント発掘を目指している。すべての子どもたちには何らかの才能があるはずであり、その才能を発見し伸ばすにはコーチの質が重要であるという考え方に基づいている。重要なのは、サッカーを好きにさせること (Attractive) とトレーニングとは明確に区別されたレッスン (Joy、Fun、Creative) である。発育発達に合わせた段階的な指導の持つ意味も理解している。そういう意味でも、それぞれの子どものレベルにあったプレーの場を提供するという意味で年齢別のリーグ戦が行われている。



U-8のトレーニング

トップクラブの育成システム

トップクラブは6歳からの育成を行っており、その試合組織は1. 地域リーグ、2. 地方協会リーグ、3. ユース・シニアリーグ (12歳から15歳未満)、4. スポーツセンター (15歳から)、5. プロチームユース (U-18) という分類がなされている。

15歳まではスカウティング (選手の引き抜き) はできない仕組みになっている。また、現在チェコのU-18の代表は全員がプロチームに所属する選手である。

National League (ユース) の仕組みは、1部リーグ (D1) には16チームが所属する。1チームの構成はジュニア (15歳~17歳) とシニア (17歳~19歳) のチームがセットになっている。この2カテゴリーのチームが同日に同じ相手と同じ場所で試合を行うシステム (ダブルゲーム) になっていて、経費、日程面で効率的な運営が行われている。選手は18人でコーチが2人である。

2部リーグ (D2) は32チームで16チームずつ国内を東西に分けたリーグで戦う。リーグの試合形式はD1と同じである。

D3は14の区域 (県) でリーグ戦が行われ、D4は地域のリーグで戦う。いずれも年齢の異なるカテゴリーの2チームがセットになって日程が組まれている。

選手発掘・育成のシステムは、そのクラブの地域でのステータスが確立していてこそ円滑である。地域のシンボルとしてのステータスをもち尊敬を集めるプロクラブは合理的で優れたシステムや環境をもっている。地域に根付いているクラブは磐石である。

ローカルクラブのユースのトレーニング (FC MARILA PRIBRAM)

プラハから南へ車で約1時間の距離にあるFCプリブムラの雪の中のトレーニング (U-15) を見学。週6回のトレーニングがチーム生え抜きのコーチによって行われる。選手は近隣の学校に通っている。人口芝やスタジアム等は無駄なく作られている。5歳から指導している。雪で足元が悪い状態ながら膝から下の振りがシャープでキックやパスの技術が高くそつないプレーをする。



雪の中のトレーニング

11月10日

スパルタの野望と課題・・・AC SPARTA PRAHA (by DAVID SIMON 氏)

チェコ一番のビッグクラブであるスパルタは、企業母体がJMTに変わって経営の規模が拡大した。Eurotel、TOYOTA が2年前よりビッグスポンサーになっている。



スタジアム



スパルタトップトレーニング

(競技場の名前は TOYOTA Arena である)

- 目標は、
1. 来年以降毎年チャンピオンズリーグに参戦し優勝できるチームを目指す。
 2. チェコ選手が世界に飛躍するための架け橋としてのクラブを目指す
 3. ユースの育成に今まで以上に力を入れる。
 4. 東欧圏のチームは移籍による利益に頼っていたがそれ以外の方法を探る。
 5. 企業とタイアップしてクラブを大きくする。労働力の安いチェコへの日本企業の進出にあわせたクラブの発展を画策

- 課題は、
1. 毎試合スタジアムを満員にすること。いかに観客をスタジアムの呼ぶかの妙案がない。「喜びの提供」がキーワード
 2. 熱狂的サポーター（ウルトラファン）がいるために一般の観客がスタジアムに来ることを敬遠する。法律を整備して暴れるサポーターを排除したイングランドを見習いたいと考えている。

ユースの育成には十分な投資をしている

昨年度2003年度の収入は15億円程度である。2003年に完成したスパルタの育成グラウンドの建設費は10億円で、スポーツ省からもその費用が拠出された。10億円の育成グラウンドへの投資は将来のためには妥当な投資額であると考えている。14におよぶ年齢・カテゴリー別チームと1つの女子チームを抱えるユースの年間予算は1億円程度である。ちなみにチケット代金は3ランクに分かれ230コルナ(1,000円程度)、150コルナ(600円程度)、50コルナ(200円程度)である。ナチスの時代に建設された巨大な旧国家スタジアム跡に作られた育成グラウンドは、冬以外に使用する天然芝6面、人工芝2面を持つ。6歳から14歳までの1歳刻みで作られたチームとそれ以上のトップ以外のチームが使用する。1チームは18人の選手に対して2人のコーチがつく。全14チームのコーチ構成は4人のフルタイムコーチと25人のパートタイムコーチである。



グラウンド図



試合風景



旧国家スタジアム

「子どもは小さな大人である」…AC SPARTAの育成チームの試合・練習・施設

1. U-14…オーストリアのチームと試合

数人のタレントはいたが育成システムの成功を思わせるような特別な才能は発見できなかった。

2. U-12…2人のコーチによるトレーニング。トレーニングに目新しいものは無かったが規律が保たれており緊張感のある集中したトレーニングであった。

3. U-8 …私自身、「子どもは小さな大人ではない」とこれまで指導者には教えてきたが、コーチの厳格な指導と8歳の子どものトレーニングには見えない規律あるトレーニング光景に複雑な心境であった。選手を育てるといふある意味効率と結果を求められる現場の宿命を感じた。確かに子どもたちの技術はしっかりしていたし選ばれた者の雰囲気もあったが、私たち見学者がいたことやコーチのパーソナリティを差し引いてももう少し子どもたちに無邪気な笑顔と自由さがほしかった。ストリートサッカーに代表される自主的で快活で自由な雰囲気の中にこそ創造的なプレーが生み出される。トレーニングの厳格さはそこで生み出されたタレントをより強化する手段である。バランスの取れた育成の難しさを垣間見た時間であった。日本の現場と重なるところがありよい見学であった。

4. 施設見学…グラウンドはもとより近代的で使いやすい施設が作られている。特にどのクラブでもそうであるが、サッカー関係者や保護者などの来訪者が気軽に寄れて飲食できる軽食レストランが有効に活用されている。



規律あるトレーニングU-14



「子どもは小さな大人」を思わせるU-8

11月12日

1チーム2人のコーチ、驥、学校との連携、地域に根付くこと

…SPARTAスポーツスクール(U-10)のMACEKコーチとの話

1. 各年代(5歳から)の選手のセレクションの方法は?

『毎年2回希望者が試験を受ける。希望者はそう多くはない。親のみが熱心で子どもはサッカーに興味の無いケースもある。親の考え方や態度が子どものサッカー継続に影響を与えている。』

テスト項目は①歩く、走る、体操、コーディネーション能力②ボールフィーリング、ボールテクニック、左右の足のボールフィーリング、スラローム③ゲームでのインテリジェンスなどである。』

2. 募集の方法は、ラジオ、新聞、雑誌等を使ってリリースする。8年前は応募が170人いたが現在は50人程度である。これは、子どもたちの遊びの変化（ゲームなど）や社会の変化と深い関係があると思われる。試験に落ちた子どもへは、他のクラブを勧めたり他のスポーツを勧めたりして個別にしっかり対応している。
3. 10歳までにサッカーをやらせる（早い段階でサッカーに子どもを取り込むのは）のは他のスポーツへの対策である（例えばチェコではアイスホッケーへ選手をとられない対策の意味も持つ）
4. 選手の入替えは、能力や登録者数、物理的にクラブに通えないといった理由から行われる。
5. トレーニングは週3回の練習と1回の試合が行われ、M-T-Mが中心である。毎年2回コーチの研修会があるが、トレーニングの中身については各コーチに任されていてペーパーレベルの統一されたマニュアルはない。もちろんコーチは有資格者であり、3年間持ち上がりでチームを教える。どこの国でもそうであるように、親との関係は懸案事項である。
6. 子どもたちの眼をサッカーに向けさせてサッカーをやらせる工夫は？
『スパルタは地域のサッカーのステータスを確立しているので多くの子どもがスパルタでサッカーをやることを目指してくる。そういう意味では恵まれていて選手集めに苦勞していない。』
7. 選手（子どもたちの）全般的なマネジメントについては？
『ステータスを持ち子どもたちの憧れのクラブであるのでやる気のない子どもはもちろんいない。クラブ自体も学校をもっているが毎月1回、学校ノート等を使って子どもたちの学校での様子をチェックしている。学校生活を含め日常生活がだめな人間はサッカーでも成功しないという考え方が浸透している。』
8. コーチの契約内容
1チーム2人のコーチが原則である。専属のコーチ以外は、他に仕事を持つパートタイムコーチである。通常1回2時間の練習を週3回受け持っている。その他では保護者のボランティアを有効に活用している。

MACEK 氏との話では、スパルタというクラブが地域のスポーツの中心であることがよくわかった。地域に根付いた活動を展開し実績をおさめることの合理性と重要性、地域からリスペクトされることの意義を再確認した。地域やそこに暮らす人々の中に受け入れられ認知されることでクラブの運営や活動の可動性が大いに広がってゆく。つまり明確なクラブステータスの確立がクラブの選手集めや育成の現場にも必要不可欠な要素であるということである。そういう意味でもJリーグアカデミーの果たす役割は大きい。

スパルタ U-10 のトレーニング (MACEK コーチ)

技術系中心だが一人の行う回数が少ない。トレーニング内容はよく考えられている。同じスパルタでもコーチのキャラクターによって練習の雰囲気異なる。ここのトレーニングには活気があった。

11月11日

選手への教育、躰が成功の鍵を握る…スラビアの育成システム

SK SLAVIA PRAGUE スポーツダイレクター JAN RICKA 氏の講義

1. チェコのサッカー…『チェコはそれほど豊かな国ではないが、サッカーにおいてはヨーロッパで最強の国のひとつであり育成でも成功を収めている。2000年までヨーロッパ選手権、オリンピックに出場している唯一の国である。』

2. スラビアプラハの組織…オーナー(英国の ENIC) 収入 6 億円程度

◇A チーム (トップ)

◇スポーツ部門 : スポーツダイレクター・秘書 1・エコノミスト 1・

コーチ 8 + 25・スカウティング 1・用具 1・ドクター 1

5 歳 (U-6) ~ 9 歳までのキッズ (スポーツスクール)

5 チーム

10 歳から 14 歳までのボーイズ 5 チーム

15 歳から 18 歳までのユース (スポーツセンター)

4 チーム

シニア (B チーム)

1 チーム

合計 15 チーム

◇エコノミー部門

◇マーケティング部門

◇サービス部門

3. 年間トレーニングサイクル(期分け)

秋(準備期・試合期・移行期) 8月から 11月

春(準備期・試合期・移行期) 3月から 7月

4. 子どものスカウティングに関して

- ・オープンデーを設定して参加した子どもに自由に試合をやらせて観察する (年 2 回)。事前のチェックあり。

- ・コーチが通年で見る

- * コーチ自身も 1 年で評価される

5. ユースの予算…年間およそ 4,000 万円 (全体の 3%) …宿泊費、交通費、トレーニング費を支給

6. 各チームの構造…全員のポジション表、試合での状況、スタッフ、チーム成績、個人スコアなどが一覧表になって整理されているのでデータの取出しが容易である。

7. 育成のポイント

- (ア)「ディシプリン(規律)」や「しつけ」は選手が成功する鍵である。
- (イ) システムは4：4：2. ディフェンスの4人が攻守にわたって経験しなければならない。
- (エ)U-8は40分、U-10は60分の試合。ハーフコート8人制。交代自由。子ども用ゴール。

8. ユースからトップへあがる人数

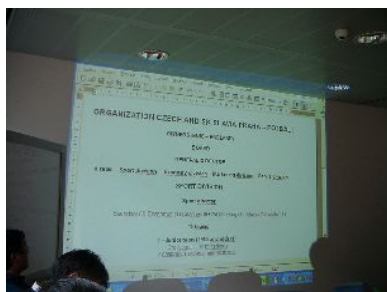
U-19から毎年10人程度が上がる。トップの選手の1/2程度がユースから上がる。(現在は19人中8人が生え抜き)

9. ユース育成の哲学

スキル・ファイティングスピリット・チームへの貢献、忠誠心、協働・キャラクターを植え付けトッププレイヤー、そして代表選手を輩出し最終的には世界でトップのサッカー国になることを夢としている。サッカーを始めたばかりの子どもたちに対してはサッカーに興味を持っているかに注目しキャラクターの部分でもエゴイスト的な部分も注目している。なお、子どもたちの試合の結果は新聞等に載せないということにも配慮してあくまでチームの結果より個の育成を優先している。

10. 選手のレビュー(再評価)について

U-21とユースチーム5チームのコーチが毎週1回選手に関するミーティングを行っている。



レクチャー風景

11月13日(土)

スラビアユースU-8、U-10の試合…ふたたび「子どもは小さな大人である」

ボールに対する執着心があり、団子にならずポジションプレーができています。戦術的なプレーができていてまさしく小さな大人である。

U-8のコーチの話

『統一した指導プログラムはない。攻撃中心に教えている。個人スキル+戦術、6歳から育成し、ゲームを通しての育成を心がけている。ポジションプレー、規律、パスの質、チームとして活動することを重視している。月火木1.5時間の練習。土曜は1/2コートで20分ハーフの試合を行う。』



U-8 激しい奪い合い



完璧なフォーム



しっかりした技術

プロゲーム観戦 SLAVIA 対 MARILA PRIBRAM (5-1)

SLAVIA はボールを奪うことに対するコンセプトと連動がしっかりしている。

シュートミスが少ない。

インサイドパスが正確。

もう少し攻撃のバリエーションが必要であり、対敵の技術がやや足りない印象を受けた。



11月14日(日)

SK DYNAMO CESKE BUDEJOVICE 訪問。

1905年創立で来年100周年を迎える。南ボヘミアのユースの拠点。U-6 から U-19 までとサテライト (18 人)、トップ (18 人)。7 人が役員で資金は役員と政府が出している。全体予算は約6,000万円で選手の最高年奉は約600万円。現在スタジアムの改修を行っているが500万円の費用は市が負担している。



シンプルで合理的なスタジアム

11月15日(月) **オーストリア**

ユーロ2008に向けたビジョン…オーストリアサッカー協会

by DAUL GLUDVATZ 氏、ROBERT HILBERGER 氏

『2008ユーロにターゲットを絞っている。』

12歳以下の子どもはストリートサッカーに変わるものとしていろいろなサイズのボールを使ってトレーニングしている。学校とのタイアップをはかりオーストリア中にスクールリーグがある。



パワーポイントを使った講義



キッズからの育成とエリートまでの一環指導をめざす

キッズ（0から12歳）・・・

コーチにはライセンス（125時間のCライセンス+150時間の特別コース）を義務付けし、しっかりした育成が行われるようにしている。

教育センター（LAZ）・・・

全国29ヶ所に11歳から14歳の義務教育年代対象の教育センターを設け有資格コーチによる指導が行われている。教育センター周辺50キロの子どもの対象に週最低5回はトレーニングが行われ勉強と組み合わせた指導を行う。個人のスキルアップがテーマであり、ヘッドコーチのほか、サブコーチ、GKコーチ、個人的コーチ、メディカルなどのスタッフをもつ。週末は自分のチームに戻って試合をする。視察したボルガスストラube中学では1クラス30人の内15人がサッカーの生徒である。学校で週午前2回協会派遣のコーチの指導を受ける。午後はクラブで週4回トレーニングする。

アカデミー・・・

14歳以上を対象に全国に13ヶ所。内訳は、プロの下部組織5ヶ所、学校主体のアカデミー8ヶ所。教育センターの個人技術の向上に対し、アカデミーではサッカーの戦術を含めたサッカー全般を教わる。

サッカー協会と協力関係にある46の学校がありサッカーと勉強の両立を図っている。学校と連携しているため週2から5回の午前練習と週5回午後練習を行う。全体で550人の選手を指導している。

1月7月の年2回スポーツ科学センターで体力測定を行いデータを活用できるシステムである。

オーストリアサッカーのエッセンス

- 1 あらゆるレベルでのサッカーのレベルアップを目指す
- 2 教育を重視する
- 3 コーチ育成・・・2年間でUEFAのプロ、A、Bの資格を持つ、ユースと子どもたちのためのコーチ150人を育成した
- 4 個々の選手の才能を伸ばす（基本的育成）
- 5 よい選手を集めて教育することが重要
- 6 才能ある子どもに多くのチャンスを与えることが課題（特に13歳以下）
- 7 コーチは子どもたちの才能を見抜く千里眼が必要であり、子どもたちのサッカーには優れたコーチの存在が最も重要である。
- 8 コーチには10年以上の経験が必要だ



テキスト

オーストリアリーグと育成システム・・・GEORGE PANGL 氏講義

『オーストリアリーグは D1-10 チーム、D2-10 チームと 3 つの地域リーグからなる。それ以下のリーグをあわせるとおよそ 2, 200 のクラブがある。D2 は 2005 年度より 12 チームに増加する。D2 のゲームは常時 U-21 の選手が 1 人出る仕組みになっている。登録も 6 人の U-23 の選手がいなければならない。これは強化の策である。D2 の 85% は U-23 の選手である。トップにより選手がいなくなったので若手の育成に力を注いでいる。



シーズンはリーグが 8 から 11 月、3 から 6 月である。12 から 2 月は室内で行う。

ユース選手の育成は、14 歳までは普通の教育を行っている。15 歳からアカデミーで、ポジションのスキルを徹底して身につけるなど特別なトレーニングを受ける。アカデミーでは週 3 回午前中トレーニングができる。13 のアカデミーのうち 5 つがプロチームのもつアカデミーである。

プロチームの売り上げは D1 平均 14 から 15 億円である。ビッグクラブの RAPID MAGNA WIEN の場合は 25 億円程度。D2 の平均は 7 から 8 億円である。』

IMSB (国立スポーツ科学トレーニングセンター)

ユース選手の体力テストはスピード、コーディネーション、アジリティ、筋力など 14 の項目がある。中でも特にコーディネーションを重視している。日本の JISS と同様の施設である。



11月16日(火)

RAPID MAGNA WIEN の育成システム (By CHRISTOPH GLATZER 氏)

『8 歳から 14 歳までのユースチームがある。1 チーム 18 人であり、18 から 21 歳のチームはプロアマ混在である。学校と連携を重視し教育とトレーニングを組み合わせている』



システム

8 から 14 歳・・・MAGNA でプレーし学校で教育を受ける ←さまざまなクラブから選手が集められる仕組み (週 3 から 4 回トレーニング)



提携中学での午前練習

15から18歳・・アカデミー（プレーシアカデミー提携工業高校で教育を受ける（週3から4回トレーニング）。80人定員で2億5,000万円の予算はアカデミーが負担している。



19から21歳・・MAGNA でプレー（週6回トレーニング：1日2回×2、1回×2）

オーストリア中にスカウト網を持ちアカデミーへは300人くらいが応募し20名前後が入ることができる。テストは、3日間行われ、サッカーの実技と学校での成績や心理学テスト、コーディネーションなどが試験される。アカデミーは4年前に創設され、国際大会へもチームとして出場している。アカデミー創設によって運動能力・体力面が圧倒的に向上しすでに3人がトップチームでプレーしている。目標はチャンピオンリーグへの出場である。

その他

- ・ NYMBURG 総合スポーツセンター視察



共産圏時代より受け継がれた広大な敷地に広がる施設群。現在も盛況な利用状況である。

- ・ プラハ日本人学校訪問およびサッカー教室



小中学生男女にサッカー教室を行いたいへん喜ばれた。

- ・ ウィーン、ハッペルスタジアム視察

